

有題 無題

公益資本主義とアフリカ

私はこの10年、アフリカで幼児の栄養不良改善に取り組んでいる。これは長い目で見て、アフリカの成長実現による貧困撲滅と平和定着に資するからだ。

今世紀末、アフリカの人口は40億人に増加する。しかし貧困層に生まれた子どもの4割が慢性栄養不良になり、脳や身長の発達障害を引き起こす。5歳までに改善しなければその後の食生活では改善しない。彼らは大人になってからも単純労働しかできず、生涯貧困層から脱出できない。

一方、欧米資本と手を組んだ現地人は大変な富裕層を形成している。貧富の差が激しくなると社会不安の下地が醸成され、紛争が勃発し、数億人もの難民があふれ出す

独自性で世界変革の原動力に

可能性がある。現実には起ると世界中で文明の後退が起きるのは確実だ。

現地で証拠と共に理解できると、新たな歴史観を抱かざるを得ない。

先住民を殺りく、コンゴではベルギー国王レオポルド2世の治下で生ゴム採取のノルマを果たせな

国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)やESG投資も新しい形のあるのではないかと、途上国のリーダーは感じているようだ。

子どもたちの栄養不良改善とともに貧困層が中間層になるための金融制度改革をアフリカ19カ国で手がけてきた理由はここにある。

アフリカ南西部を例にとると、白人が先住民から土地を奪い殺りくしたことで労働力が激減、内陸から黒人奴隷を連れてきた。オランダ主導で植

アフリカにおいて、白人による人種差別の伝統が今世紀に消えそうになることも理解している。彼らは自らの利権が確立した時点で、国際ルールを確立し既得権を守る。

行き過ぎた株主資本主義が格差を生んでいる現状に際し、今後100年、日本が世界に対してどうあるべきか真剣に考え独自の哲学を持つべきである。

内閣府参与 原丈人

昨年末に西アフリカ9カ国を訪ねた。どの国も欧州列強の奴隷狩りの痕跡が残っている。民族の殺りくを組織的に行い、土地を強奪し資源を奪つ

王国を完膚なきまでに破壊し、ドイツはナミビア

彼らは自らの利権が確立した時点で、国際ルールを確立し既得権を守る。

行き過ぎた株主資本主義が格差を生んでいる現状に際し、今後100年、日本が世界に対してどうあるべきか真剣に考え独自の哲学を持つべきである。



原丈人は、27歳まで中米タムパセリに留学し、84年アカセルからスタートアップ企業を立ち上げ、現在は、情報技術や生命科学ベンチャー企業に権威を有し、政府間機関を代表する。米国公益財団代表理事。